

奈良中心市街地 公共交通総合連携計画 (案)

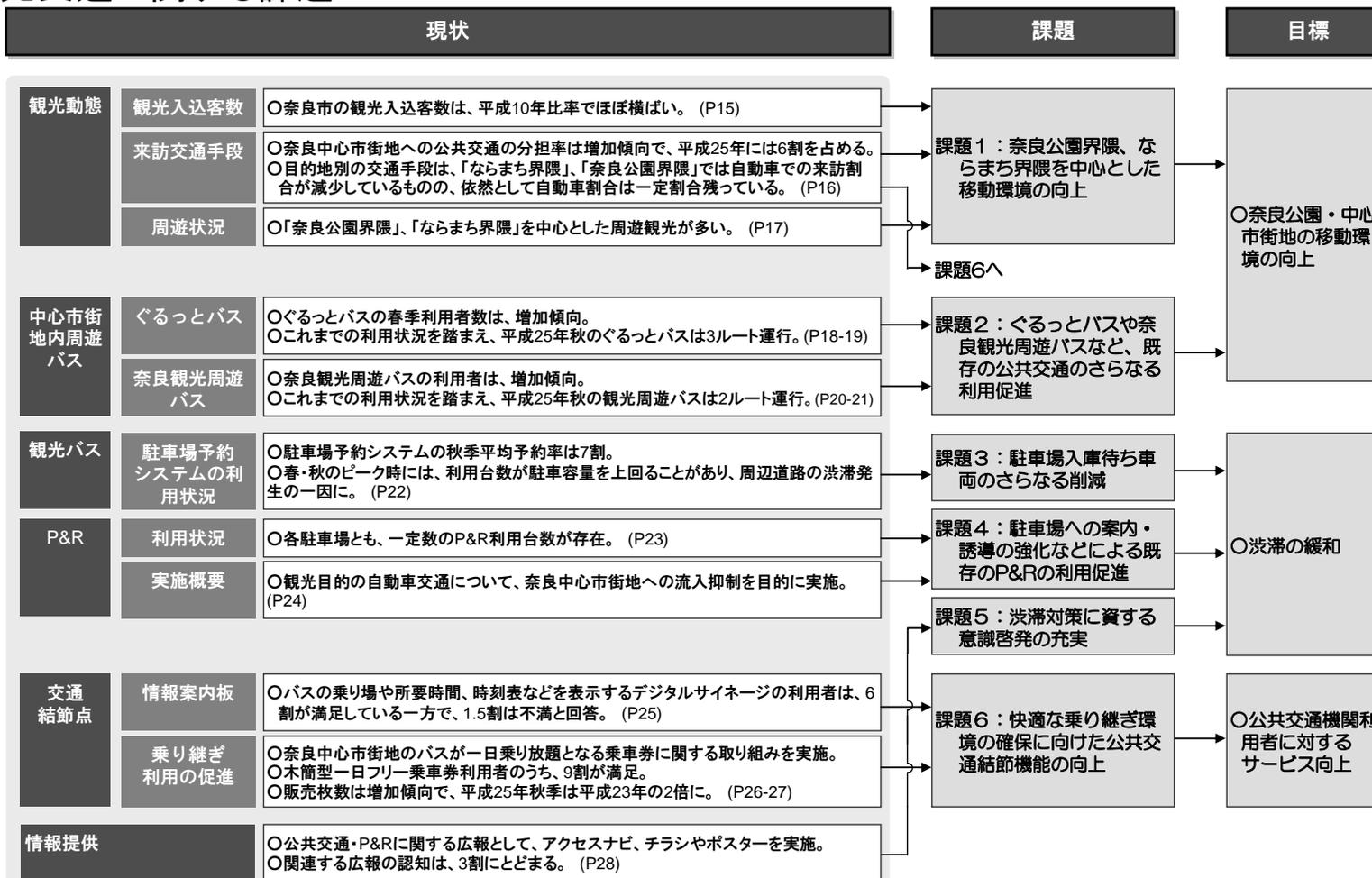
2. 奈良中心市街地の現状と課題

2.5 奈良中心市街地の交通課題

○奈良中心市街地の概況から、市街地では自動車交通量が多く、休日および平日ともに旅行速度が低く20km/hを下回っている状況にあります。

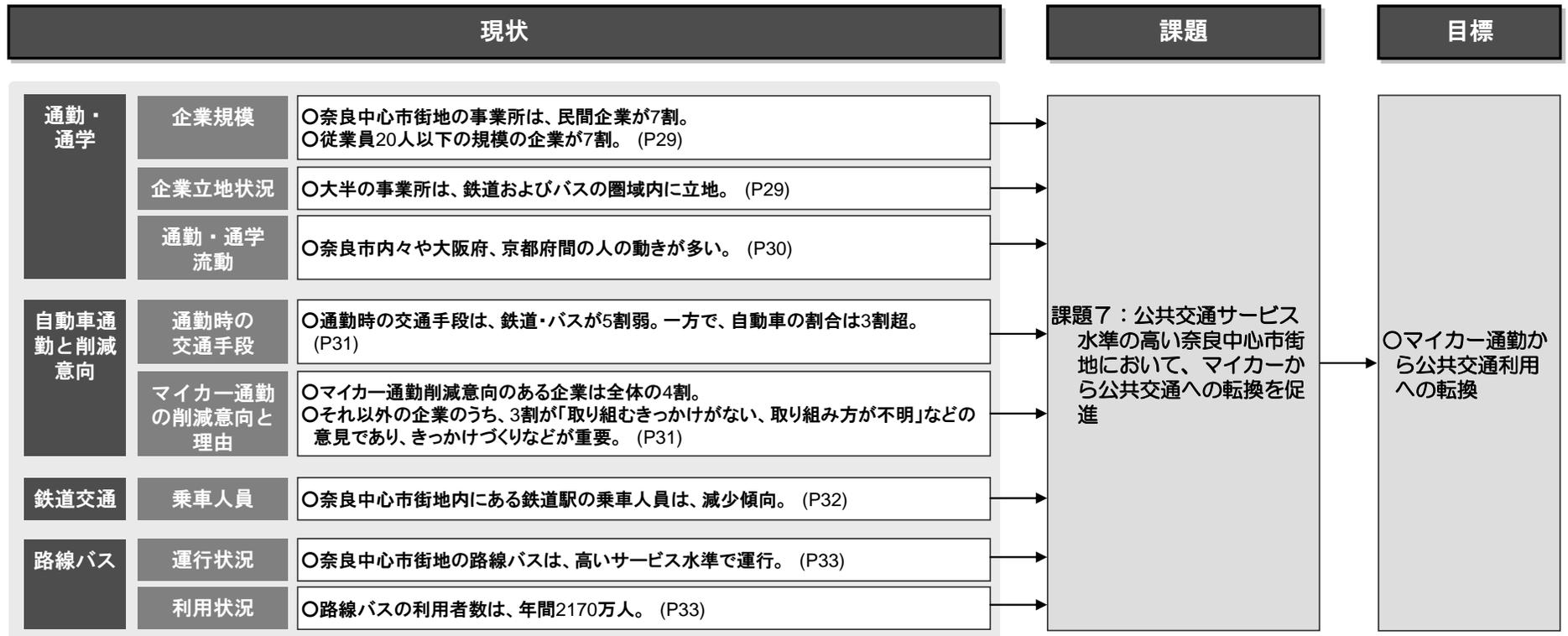
○以降では、休日の観光交通および平日の日常交通に着目して、交通の側面からの課題を示します。

2.5.1 観光交通に関する課題



2. 奈良中心市街地の現状と課題

2.5.2 日常交通に関する課題



3. 基本理念および計画目標

3.1 基本理念

- 奈良中心市街地内で、観光客・市民双方にとって移動のしやすい空間を創出するためには、自動車利用から公共交通利用への転換を促進することが重要であり、そのためには公共交通の利用環境向上に向けて取り組んでいくことが不可欠です。
- 行政・交通事業者の積極的な取り組みはもとより、市民・観光客などの関係者相互の協力により、公共交通で快適に移動できる地域を創出することを念頭に置き、次の理念を掲げるものとします。

地域に親しまれ、観光客に好まれる、公共交通網の構築による地域活性化の実現

理念①：地域の快適性向上と活性化

理念②：観光客の満足度向上

理念③：世界遺産など、奈良の文化財や自然環境の保護

3.2 計画目標

- 本理念を踏まえ、課題を解決するための本計画の目標として、奈良中心市街地において、過度に自動車に頼らず、公共交通で快適に移動できる交通体系の確立を目指します。
- 本計画の計画目標として、右のとおり設定します。

種類	計画目標	具体目標
観光交通	(1) 渋滞の緩和	奈良中心市街地における旅行速度の向上
	(2) 公共交通機関利用者に対するサービスの向上	公共交通の分担率
	(3) 奈良公園・中心市街地の移動環境の向上	奈良市の観光入込客数
日常交通	(4) マイカー通勤から公共交通利用への転換	公共交通への転換者数

3. 基本理念および計画目標

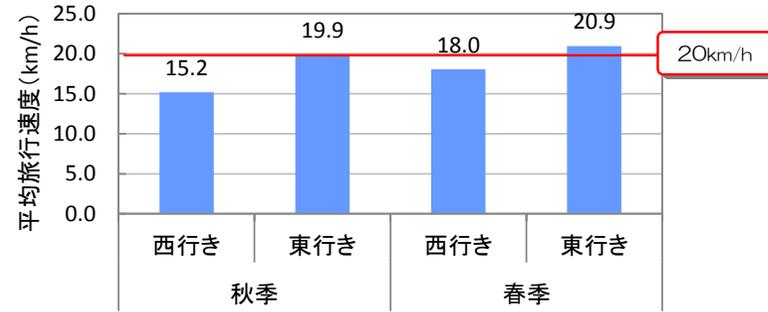
(1) 渋滞の緩和：奈良中心市街地における旅行速度の向上

奈良中心市街地における渋滞を緩和させ、快適な観光を実現するため、主要道路における旅行速度を向上させることを目標とします。

平均旅行速度 (km/h)

現況値 15.2(km/h)* → 目標値 20(km/h)以上 <平成28年度>

- ※7時～19時の12時間の平均旅行速度(km/h)
- ※奈良公園と平城宮跡など、主要な観光施設へのアクセス道として利用する主要道路である「大宮通り(国道24号東側)」を対象
- ※休日秋季：西行き 15.2(km/h)、東行き 19.9(km/h)
春季：西行き 18.0(km/h)、東行き 20.9(km/h)
- ※目標値は、公益財団法人 道路交通情報センター (JARTIC) の渋滞情報、「一般道路 20km/h未满是混雑」を参照に設定



出典：平成24年10・11月、平成25年4・5月の民間プロープデータ (ホンダインターナビ統計データ)

図. 大宮通りにおける休日の平均旅行速度

(2) 公共交通機関利用者に対するサービスの向上：公共交通分担率

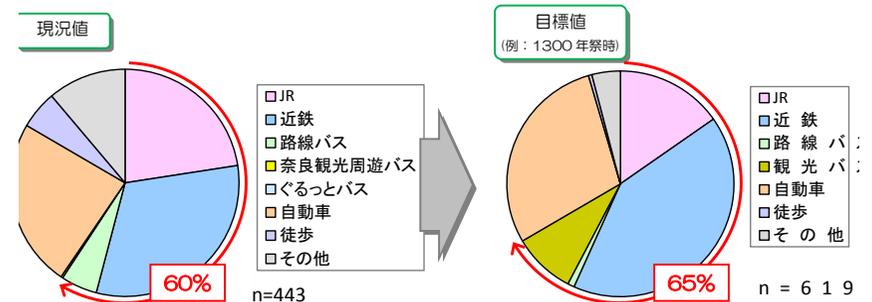
公共交通のサービス水準を向上させ、誰もが迷うことない公共交通での観光を促進することによって、公共交通の分担率を増加させることを目標とします。

公共交通分担率

現況値 60(%)* → 目標値 65%以上 <平成28年度>

- ※秋季来訪者アンケート「奈良中心市街地への来訪交通手段」に関する設問で把握
- ※公共交通とは、JR、近鉄、路線バス、ぐるっとバス、奈良観光周遊バスと定義し、全交通手段に占める公共交通の割合により算出

出典：平成25年11月休日中心市街地来訪者アンケート調査



出典：平成25年11月休日中心市街地来訪者アンケート調査
平成23年11月休日中心市街地来訪者アンケート調査

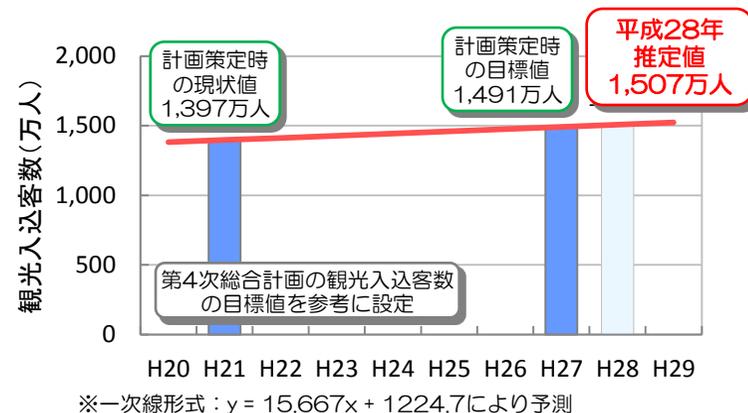
図. 公共交通の分担率

3. 基本理念および計画目標

(3) 奈良公園・中心市街地の移動環境の向上：奈良市の観光入込客数

奈良中心市街地における移動環境を向上させ、公共交通での周遊観光を促進させることによって、奈良市の観光入込客数を増加させることを目標とします。

観光入込客数	
	＜平成 28 年度＞
現況値	1,397(万人/年) [※] → 目標値 1,507(万人/年)
※奈良市内への観光入込客数 ※奈良市第4次総合計画に記載の観光入込客数、平成21年：1,397万人/年、平成27年：1,491万人/年のトレンドを考慮し、平成28年度の値を推定し、目標値として設定。	
出典：奈良市第4次総合計画	



出典：奈良市第4次総合計画に基づき予測

図. 観光入込客数の推移と目標設定

(4) マイカー通勤から公共交通利用への転換：公共交通への転換者数

従業者などへの公共交通に対する意識を向上させることによって、日常の交通手段について、マイカーから公共交通への転換者数を増加させることを目標とします。

公共交通への転換者数	
	＜平成 28 年度＞
現況値	0(人/年) [※] → 目標 より多くの人をマイカーから転換

4. 実施施策

4.1 施策体系

- 計画目標を達成するための施策体系を右に示します。
- 施策実施にあたっては、関係機関と十分に協議しながら進めていきます。

種類	計画目標	実施施策	モニタリング指標
観光交通	①渋滞の緩和	1 渋滞対策に資する効果的な広報の実施	①チラシおよびポスター配布枚数・箇所数 ②HP アクセス数 ③放送回数
		2 パーク&ライドの実施	①利用台数
		3 駐車場利用の平準化	①JR 奈良駅市営駐車場の利用台数
		4 観光バスの需要調整	①予約台数 ②予約率
	②公共交通機関利用者に対するサービスの向上	5 鉄道駅などでの乗り継ぎ利便性の向上	①情報端末利用者数 ②木筒型一日フリー乗車券の販売数
		③奈良公園・中心市街地の移動環境の向上	6 ターミナルの検討
日常交通	④マイカー通勤から公共交通利用への転換	7 観光拠点間の移動環境の充実	①ぐるっとバス利用者数
		8 ならまち界隈の動線確保	①大宮通りと大森高畑線の東向き交通量の比率 ②ならまち振興館入館者数
		9 モビリティ・マネジメントの実施	①マイカー通勤から他の通勤手段への転換者数

4. 実施施策

4.2 施策概要

○それぞれの事業概要は、以降に示すとおりであり、取り組み状況および効果を定期的に把握するために、モニタリング指標を設定します。

(1) 施策1: 渋滞対策に資する効果的な広報の実施

項目	内容	
事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度	
概要	鉄道駅・高速 SA/PA などにおけるチラシの留め置き・ポスターの掲示	• これまでの広報事業を参考にして、認知度が高いことが確認された鉄道駅や高速 SA/PA において、チラシ・ポスターによる広報を実施します。
	ホームページの充実	• 奈良中心市街地における観光目的利用者を対象に、魅力的な観光情報を紹介するためのポータルサイト：アクセスナビの情報充実を図ります。 • 観光案内に加え、ぐるっとバスや周遊観光バス、さらには P&R 駐車場などを分かりやすく示すことで、公共交通の利用促進を図ります。
	P&R の利用促進に資するラジオ・道路情報板などでの情報提供	• 自動車来訪者に対して、奈良中心市街地で公共交通を利用して観光してもらうために P&R を推進します。 • P&R 駐車場に関して自動車運転中でも情報を取得可能な、ラジオや道路情報板、案内看板や横断幕の設置を行います。
モニタリング指標	指標①：チラシおよびポスター配布枚数・箇所数	チラシ：14,520 枚、27 箇所 ポスター：115 枚、7 箇所 (平成 25 年秋季)
	指標②：HP アクセス数	7,822 回/月 (平成 25 年)
	指標③：放送回数	48 回/月 (平成 25 年)
実施主体	奈良県、奈良市	

(2) 施策2: パーク&ライドの実施

項目	内容	
事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度	
概要	• 「R24 高架下駐車場」と「奈良市役所駐車場」などで P&R を実施し、ぐるっとバス等で観光周遊を促進し、奈良中心市街地の交通渋滞を抑制します。	
モニタリング指標	指標①：利用台数	124 台/日 (平成 25 年秋季)
実施主体	奈良県、奈良市	

(3) 施策3: 駐車場利用の平準化

項目	内容	
事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度	
概要	分かりやすい駐車場案内の整備	• 円滑な駐車場利用を促進させるために、駐車場案内システムを整備するとともに、駐車場への案内・誘導を充実します。
	JR 奈良駅前周辺駐車場の利用促進	• JR 奈良駅周辺駐車場の料金見直しなどにより、奈良中心市街地における駐車場利用の平準化を促進し、渋滞の緩和を図ります。
モニタリング指標	指標①：JR 奈良駅前営駐車場の利用台数	401 台/日 (平成 25 年秋季)
実施主体	奈良県、奈良市	



図. ポスターおよびチラシ

4. 実施施策

(4) 施策4: 観光バスの需要調整

項目	内容	
事業期間	平成26年度～平成28年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 観光ピーク期間に観光バスが来訪する時間帯を分散し、駐車場への入庫待ちによる渋滞を解消するため、ウェブ上での予約を基本とする観光バス駐車場予約システムを継続的に実施します。 	
モニタリング指標	指標①：予約台数	69台/日（平成24年）
	指標②：予約率	63.3%（平成24年）
実施主体	奈良県	

(5) 施策5: 鉄道駅等での乗り継ぎ利便性の向上

項目	内容	
事業期間	平成26年度～平成28年度	
概要	情報案内強化による乗り継ぎ利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅からバスへの快適でかつ円滑な乗り継ぎが可能となるように、鉄道駅にてバス停の位置やバスルートなどの運行情報に関する案内を行います。 近鉄奈良駅構内の観光案内所の前に設置しているデジタルサイネージ（電子看板）について、バス停の乗り場案内、おすすめバス観光ルートなどの案内情報の強化を図ります。
	木簡型一日フリー乗車券の企画・販売	<ul style="list-style-type: none"> 奈良中心市街地内における公共交通による周遊観光を促進するために、継続的に木簡型一日フリー乗車券を製作・販売します。
モニタリング指標	指標①：情報端末利用者数	48,246人/月（平成25年）
	指標②：木簡型一日フリー乗車券の販売数	173枚/日（平成25年秋季）
実施主体	奈良県、奈良市、JR、近鉄、奈良交通、協議会	



図. デジタルサイネージおよび木簡一日フリー乗車券

(6) 施策6: ターミナルの検討

項目	内容	
事業期間	平成26年度～平成28年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 奈良公園への来訪公共交通手段と公園内を走行するぐるっとバスとの交通結節機能を向上させるために、基本計画を策定して、乗り継ぎ利便性向上に向けたターミナルの検討を行います。 	
モニタリング指標	—	
実施主体	奈良県	

(7) 施策7: 観光拠点間の移動環境の充実

項目	内容	
事業期間	平成26年度～平成28年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 奈良公園や平城宮跡、ならまちなどの観光地、鉄道駅などを結ぶ周遊バス（ぐるっとバス等）について、運行形態などを見直しながら、継続的に運行します。 	
モニタリング指標	指標①：ぐるっとバス利用者数	738人/日（平成25年秋季）
実施主体	協議会	

4. 実施施策

(8) 施策8:ならまち界隈の動線確保

項目	内容	
事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ならまち南エリアで周遊観光が多いことを踏まえ、観光および交通の両面について、ならまちのエントランスとなる拠点を整備します。 ・その動線を確保するために、JR 京終駅の役割強化や路線バスの活用を図ることによって、大宮通り（国道 369 号）への流入車両を分散させるなど、奈良中心市街地の渋滞を緩和させます。 	
モニタリング指標	指標①：大宮通りと大森高畑線の東向き交通量の比率	
	指標②：ならまち振興館入館者数	597 人/月（平成 24 年）
実施主体	奈良市	

(9) 施策9:モビリティ・マネジメントの実施

項目	内容	
事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカー通勤削減の意向が高く、利用転換が可能な公共交通が整備されている事業所を主対象に通勤における公共交通への意識転換を図ります。 	
モニタリング指標	指標①：マイカー通勤から他の通勤手段への転換者数	
実施主体	奈良市	



図. 目指す観光客の周遊動線

5. 事業スケジュール

計画期間の各年度に
実施する事業内容

計画目標	事業計画	実施主体						事業計画期間（年度）		
		奈良県	奈良市	JR	近鉄	奈良交通	協議会	平成26年度	平成27年度	平成28年度
①渋滞の緩和	渋滞対策に資する効果的な広報の実施	○	○					検証・実施 		
	パーク&ライドの実施	○	○					検証・実施 		
	駐車場利用の平準化	○	○					整備	情報の提供、検討 	
	観光バスの需要調整	○						検証・実施 		
②公共交通機関利用者に対するサービスの向上	鉄道駅などでの乗り継ぎ利便性の向上	○	○	○	○	○		検証・実施 		
③奈良公園・中心市街地の移動環境の向上	ターミナルの検討	○						設計・整備 		
	観光拠点間の移動環境の充実						○	運行・検証・整備 		
	ならまち界隈の動線確保		○					拠点整備・検証 		
④マイカー通勤から公共交通利用への転換	モビリティ・マネジメントの実施		○					調査・検証 		

6. 推進体制

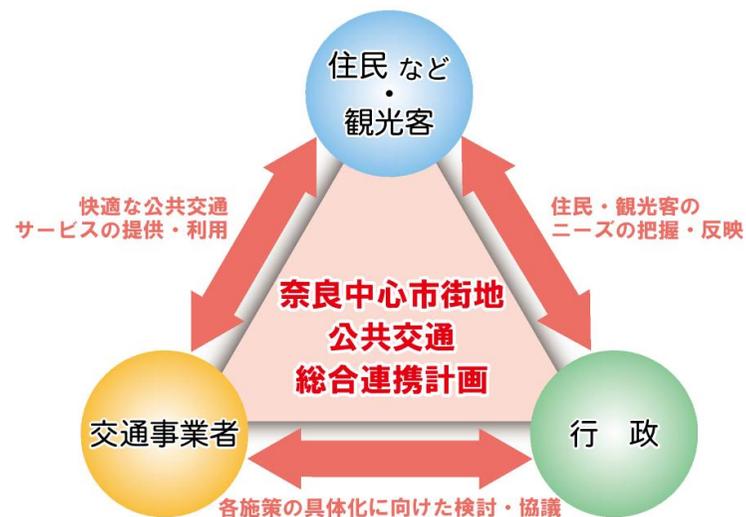
6.1 推進体系

- 本計画を確実に推進して実現していくためには、住民、交通事業者、行政など、それぞれが自らの役割を認識し、分担しながら果たしていくことが重要です。
- 事業主体は奈良中心市街地の交通状況および課題、基本理念・目標を相互に理解・共有し、緊密な連携を図りながらより快適な観光および日常生活の実現に向けて、公共交通で快適に移動できる地域の創出を進めていくこととします。

関係主体の役割

主体	役割
住民など	啓発活動などを通して、通勤、通学、私用などの全ての移動目的に関して、公共交通機関を使う意識を醸成し、無駄な自動車利用を減らして公共交通機関を積極的に利用する役割を担う。
観光客	広報などを確認して公共交通機関を利用する役割を担う。 やむを得ずマイカーでの観光客は、P&Rを積極的に利用する役割を担う。
交通事業者	企画切符などのサービスや広報活動をさらに充実させ、行政との連携を図りつつ公共交通利用促進を図る。また、交通モード間での連絡強化を図り、利便性の高い公共交通を構築する役割を担う。
行政	県・市・国が協働し、円滑な事業実施に努めるとともに、公共交通利用促進に関して、交通事業者を支援する役割を担う。

推進体系



6. 推進体制

6.2 事業推進に係る目標達成状況および施策効果検証の実施

- 奈良中心市街地における公共交通を取り巻く環境（利用状況、交通事業者の状況、行政の財政状況、社会状況など）は、時間の経過とともに今後も変化することが予想されるため、本計画で定める事業内容においても、その変化に適切に対応すべく、定期的な見直しを行うことによって、持続可能な公共交通の確率を図ることが重要です。
- 本計画では、PDCAサイクルによって、「計画の策定（Plan）、事業実施（Do）、評価（Check）、柔軟な見直し（Action）」についてマネジメントを行い、効率的かつ効果的な事業の実施へとスパイラルアップを図ります。
- 今後も定期的に協議会を開催し、PDCAサイクルに従って各モニタリング指標に基づいた評価を行いながら、改善を図りつつ、各事業を推進していきます。

PDCAサイクルによるスパイラルアップのイメージ

